

# Doshisha Eco Project 2012

同志社大学省エネルギー推進委員会  
同志社エコプロジェクト (DEP)  
〒610-0394  
京田辺市多々羅都谷1-3ローム記念館2階 RM210  
TEL :0774-65-7813  
MAIL :dep.asumi@gmail.com  
URL :http://eco-pro.doshisha.ac.jp/

## 年間報告書 2012

### 同志社エコプロジェクト



# はじめに

## 2012年度の評価と 2013年度の抱負 ～大学の視点から～

2012年度は節電要請が強く、計画停電の通達もありました。実際には、地域の節電が功を奏し、計画停電には至りませんでした。大学でも、冷房設定温度の徹底や省エネルギー設備導入などで消費電力を引き下げることができました。DEPは、掲示板での冷暖房温度調整の啓蒙活動、EVE祭でのリサイクル活動、また、アンケート調査による学生の意識調査など各種の活動を積極的に進めました。これからは学生の目線からの力強い活動を期待します。現在、電力原料の転換からエネルギー単価が上がっており、さらなる根本的な省エネルギー推進が必要とされています。学生を含めた市民の省エネルギー意識の啓蒙、継続、強化に対して、また、それらを含めた幅広い環境問題解決に向けて、DEPとも協力しながらさらなる活動を展開していきたいと思っております。

**太田 哲男**  
同志社大学 生命医科学部 医情報学科 教授  
省エネルギー推進委員会 委員長

## 2012年度の振り返りと 2013年度活動する メンバーへのメッセージ

今年度のキャンパスの省エネ化に向けた取り組みにおいては、従来の取り組みを踏まえた上で、より効率的で意味のあるアンケート調査・温度湿度調査を目指して改善を行いました。来年度からは、調査結果の分析や提案書の質を上げることに力を注げるようになり、DEPの活動の根幹である「省エネ活動」が今以上に充実したものになるのではないのでしょうか。個別プロジェクトの活動においては、活動に成果を求めて取り組んでもらいました。それは、自分の活動に誇りとやりがいをもってほしいと考えたからです。また、活動が充実し様々な立場の人から必要とされることで、DEPになくてはならない存在になってほしいと考えました。実際どの個別プロジェクトも1年間頑張ってくれました。本当に感謝しています。来年度は、今年度の経験と蓄積を生かして活動してほしいと願っています。

**吉本 篤規**  
同志社エコプロジェクト 第6代学生リーダー  
同志社大学 経済学部 4年次生

### - 目次 -

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 01 はじめに       | 11 全体会       |
| 02 DEP概要      | 13 GC        |
| 03 個別プロジェクト紹介 | 15 E-pho     |
| 04 年間スケジュール   | 17 FourK     |
| 05 省エネ        | 19 +E        |
| 09 EVE        | 21 DEP学年別座談会 |
| 10 外部イベント     | 22 編集後記      |

# 同志社エコプロジェクト

## 理念

同志社大学において、学生・大学が共に環境問題を世界的視野で捉え、その問題解決に向けた活動を実践していく。そして、その成果を社会に対して還元していく。

## 方針

「エネルギー」「廃棄物」「自然環境」の3分野に主軸を置き、各分野の環境問題解決に向けて大学の特性を生かした多面的・継続的アプローチを行っていく。

## DEP組織図

同志社エコプロジェクト(DEP)は『同志社大学省エネルギー推進委員会』の下に環境活動を行う大学組織として、2007年に設立されました。

『環境保全・実験実習支援センター』によるサポートを受け、学生メンバーは運営と活動に励んでいます。活動体系は、省エネ活動や広報活動などの全体活動と環境教育や映像制作などの特定のアプローチに特化した個別プロジェクトの2つを主軸として、多角的な活動を展開する形としています。

### 同志社大学

省エネルギー推進委員会  
環境保全・実験実習支援センター

### 同志社エコプロジェクト

#### 運営部

本プロジェクトを未来につなげるための運営活動および、本プロジェクトの現在の活動が円滑に進むための運営活動を行う部署

#### 活動部

本プロジェクトの理念を達する、学生ならではの環境活動を実践・提言していく部署。

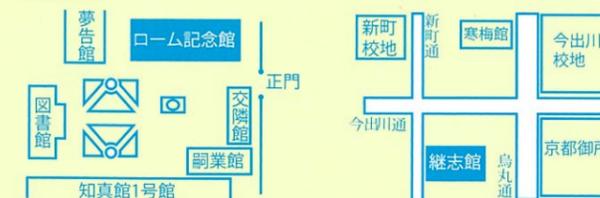
**全体プロジェクト**  
省エネ活動  
広報活動

**個別プロジェクト**  
FourK(環境事業) E-pho(Webサイト)  
+E(環境教育) GC(国際交流)

## 活動拠点

京田辺校地  
同志社ローム記念館2階 RM210

今出川校地  
継志館3階 第1教室



## あすみちゃん

あすみちゃんは、DEPのイメージキャラクターです。

「あすみ」という名前には「明日美」「明日見」「Earth美」など、DEPの活動方針を大きく、また広義に表しています。



# 個別プロジェクト紹介

DEPの学生メンバーはいずれかの個別プロジェクトに所属し、それぞれの個性を活かした活動を行っています。2012年度は4つの個別プロジェクトがあり、それぞれが定めたMissionとVisionに従って環境活動を展開しています。

## GC

GCは、Global Communicationの略で、国際交流を通して環境意識を広めるプロジェクトです。「国際的な視点を持って活動を行い、学生を中心とした様々な人の環境意識・知識が向上する場を創出する。」というmissionのもと、留学生を巻き込んだ企画を行っています。今年度は、町家カフェ、コココーラ工場見学、エコクリスマスなどの3つの企画を行いました。目指すは、「環境知識・意識を持つ人がスタンダードとなり、地球人口＝環境人口である地球」です。

## FourK

FourKは今年度発足されたプロジェクトで、「多角的な分野から、長期的でかつ継続的に実践を行い、地域社会にライフスタイルの変革をもたらす。」というvisionと、「100%学生主導で環境事業の考案と実践を行い、地域社会の人々の環境意識の向上を目指す。」というmissionを掲げています。廃棄物班530(ごみまる)、自然環境班NAIS(nature act inform shift)、交通班ThreeK(スリーク)の3つの班で編成されています。外部へのヒアリングや実地調査等を実施し、それに基づいて企画を行います。

## E-pho

E-phoは、写真を用いて環境啓発を行うプロジェクトです。「DEPの活動写真やメッセージ性のある写真を多く撮影する、継続的な環境活動からサイトコンテンツを創作することで、環境について考えてもらい、さらには行動に移してもらえるようなサイトを提供する。」というmissionを掲げています。今年度は、同志社クローバー祭での企画、環境MAPの作成を行いました。同志社大学生・同志社女子大学生が、サイトに掲載した写真やコンテンツを通じて環境意識を高め、環境に配慮した行動をすることを目指します。

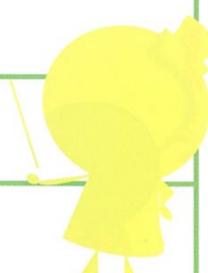
## +E

+Eは、環境教育を行うプロジェクトです。+Eの「E」には、「Environment」、「Education」、「Enjoyment」の3つの意味が込められています。「DEPならではの環境教育を創造し、感じ、考え、動き出すきっかけを与える」というvisionのもと、今年度は、同志社クローバー祭、クリスマス会で2つ企画を行いました。子どもたちに環境に対する愛着をもってもらいたいという思いをもったメンバーが、環境に配慮できる人材の育成に取り組んでいます。

# 2012年度活動紹介

2012年度も、全体活動と個別プロジェクト活動の両立を図りながら、多くの企画を行うことができました。例年行われている省エネ活動や同社EVEなどの全体活動では、活動を繰り返すことにより無駄を省き、質を向上させることができました。また、個別プロジェクトでは、昨年度の経験や人とのつながりを活かした活動が多くみられました。E-phoを筆頭にウェブサイトを活用する動きもあり、今後は活動の発信にも力を入れ、より多くの人を巻き込んでいくための良い流れができたと思います。

| 月  | 全体活動                         | 個別プロジェクト活動  |
|----|------------------------------|---|
| 4  | 新入生歓迎会                       | 環境MAP【E-pho】  |
| 5  |                              | 町家企画【GC】<br>キックオフイベント【FourK】                                    |
| 6  | 夏の省エネ活動開始                    | 写真の撮り方講座【E-pho】   |
| 7  |                              | コココーラ工場見学【GC】   |
| 8  | 夏合宿                          | 夏合宿【FourK】  |
| 9  |                              | ローム記念館中間報告会【E-pho】  |
| 10 |                              |   |
| 11 | 同志社EVEごみナビゲーション<br>冬の省エネ活動開始 | これであなたも食べ物博士?【+E】<br>オリジナル写真立てを作ろう!【E-pho】                      |
| 12 |                              | みんなで作ろう! 手作りエコクリスマス♪【GC】<br>エコ太とサンタとクリスマスの朝【+E】<br>成果報告会【FourK】 |
| 1  | リーダー選挙                       |   |
| 2  |                              |   |
| 3  | 年間報告書完成                      | 最終成果報告会【E-pho】  |



# 省エネ

## 省エネ活動とは

DEPでは、全体活動として、学生と大学の仲介役となる省エネ活動に取り組んでいます。そもそも、「同志社大学省エネルギー推進委員会」では、省エネ法の遵守や社会貢献のために大学の省エネルギー化やエコキャンパス化に取り組もうとしていました。そこで、学生と大学の仲立ちとなる存在として設立されたのがDEPです。そのため、DEPでは全員参加が必須の全体活動として、2008年度より、エアコンの設定温度を夏期28度、冬期20度に一律で設定する取り組みを行っています。また、活動を円滑に進めるために、立て看板などによる周知活動や取り組みに関するアンケート集計、さらに、学生へのフォロー活動も推進しています。以下、2012年度の省エネ活動とその成果を報告します。



## 省エネ

### 教室の温度設定に関するアンケート調査

エアコンの一律設定による現状と学生の反応を把握し、省エネ活動の方針を見直すことを目的とした活動です。京田辺と今出川の両校地にて、授業時間内の温度・湿度を15分ごとに測定する実測調査と、学生を対象にしたアンケート調査を実施しました。



### 周知活動

周知活動は、冷暖房が一律設定であることを学生に知ってもらい、取り組みに対する理解と協力を得ることを目的とする活動です。具体的には、活動を周知するポスターを立て看板に掲示して設置を行いました。また、知真館1号館に設置されている液晶パネルでも省エネについて掲載しています。

### 活動紹介

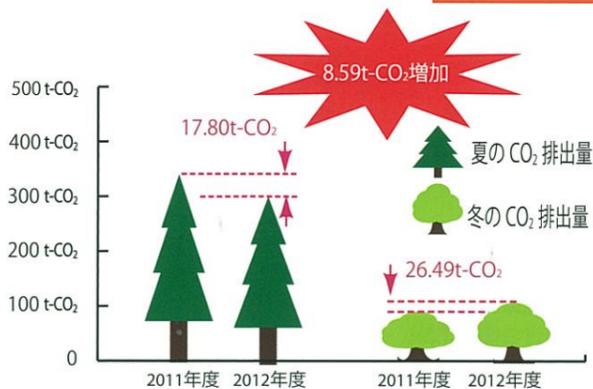


### 報告書の作成

アンケート調査や温度・湿度調査の結果を基に今後の省エネ推進活動報告書を作成し、大学に提出することで、大学の省エネ化を推進していくことを目的としています。次年度の省エネ推進委員会に向け、今年度の調査結果を分析し、報告書作成を行います。



## 削減効果



2012年度のCO<sub>2</sub>排出量は昨年度と比べて8.59t増加しました。昨年度は夏期、冬期ともに排出量を半分まで減少させることができました。しかし今年度は表や図を見ても分かるように、夏期の排出量は削減することができましたが、冬期の排出量は増加しました。これは気温が大きく影響していると考えられ、今年度は例年より寒い傾向となったことが大きな理由として考えられます。

2012年度の大幅削減に比べて増加傾向にありますが、夏期の省エネ効果はしっかりと数値にも表れています。この流れを断ち切らないよう、大学と学生が一体となり、さらなる成果に向けて省エネ活動を推進していく必要があります。

|          | 夏期(6-9月末)                  |                            | 冬期(11月15日-12月末)            |                            |
|----------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
|          | 2011年度(t-CO <sub>2</sub> ) | 2012年度(t-CO <sub>2</sub> ) | 2011年度(t-CO <sub>2</sub> ) | 2012年度(t-CO <sub>2</sub> ) |
| 知真館1・2号館 | 66.10                      | 64.68                      | 23.80                      | 31.64                      |
| 知真館3号館   |                            |                            |                            |                            |
| 図書館・食堂含む | 180.88                     | 169.68                     | 44.03                      | 58.58                      |
| 夢告館系統    | 44.25                      | 41.70                      | 9.40                       | 12.27                      |
| 情報メディア   | 16.41                      | 13.29                      | 7.38                       | 7.00                       |
| 恵道館      | 14.39                      | 14.86                      | 3.66                       | 5.29                       |
| 合計       | 322.02                     | 304.22                     | 88.27                      | 114.77                     |

### 施設課からのコメント

#### 【質問】

今後DEPが関わりを持てる事(お手伝いできる事) また、今後のDEPに期待する事は何か?

来年度から電気料金が値上げされ、省エネは経済面でもより大きな意味を持つようになります。大学の収入の多くはみなさんからの学費であり、大学はそれから電気・ガス・水道料金を支払っています。学費を有効に利用するためにも無駄を省き必要なら必要なだけエネルギーを使用する仕組みが今まで以上に求められています。

大学のエネルギーの最大の使用者である学生が参加するDEPは、このような仕組みの一つとして活動していると位置づけることができ、今後もより必要とされることでしょう。エネルギーの使用者が自らエネルギーについて考え、省エネ活動に取り組むことは大変重要なことです。学生への啓蒙や積極的な提案を行うことが省エネ活動への関わりであり、大学のみならず全ての学生への貢献だと思います。具体的な取り組みについては、大学が押し付けるのではなく、自ら考えご提案いただくことを期待しております。また、これまで以上に省エネの啓蒙活動を盛り上げていただけたことも期待しています。

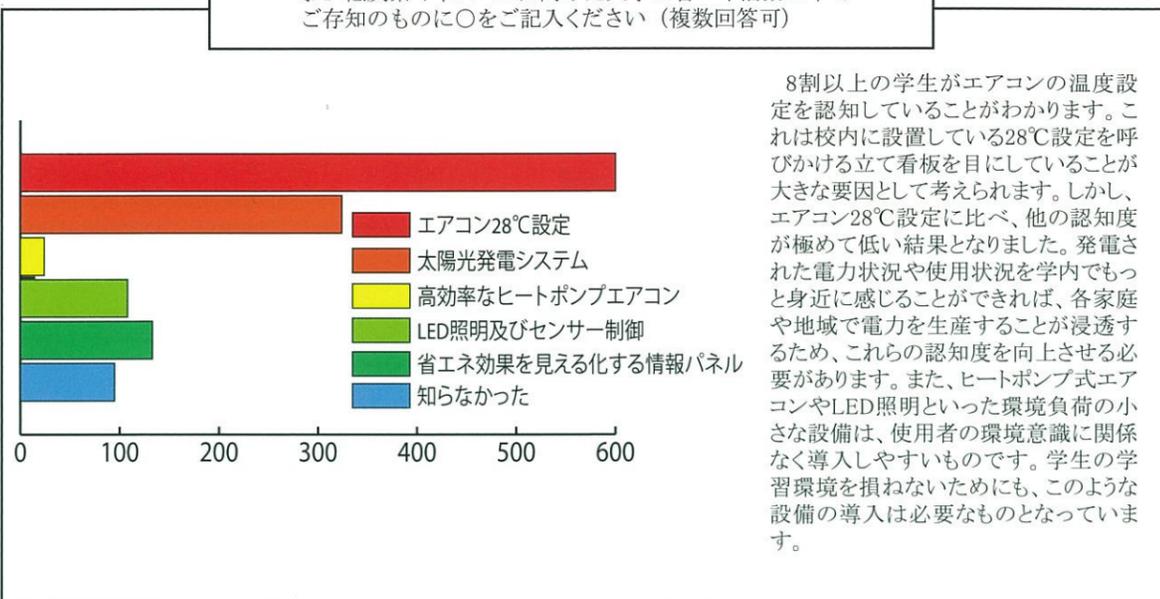
### 総括

2012年度の省エネ活動は、規模を縮小した代わりに中身を充実したものに出来ました。具体的には、温度・湿度調査において調査時刻やその日の天気や外気温・湿度を考慮したデータの分析、教室ごとに温度・湿度変化をグラフ化し、体感温度との相関関係を調べることと教室ごとの特徴分析、男女ごとに体感温度の結果を集計し男女差の分析を行いました。この結果から、より具体的な改善策を提案出来ると考えています。また、今後のよりよい調査につながるように、調査自体の改善点を洗い出すことも心がけました。今年度のアンケート調査で収集した結果とノウハウを生かし、これからもCO<sub>2</sub>排出量削減を目指して大学の省エネに貢献していきます。



# 省エネ

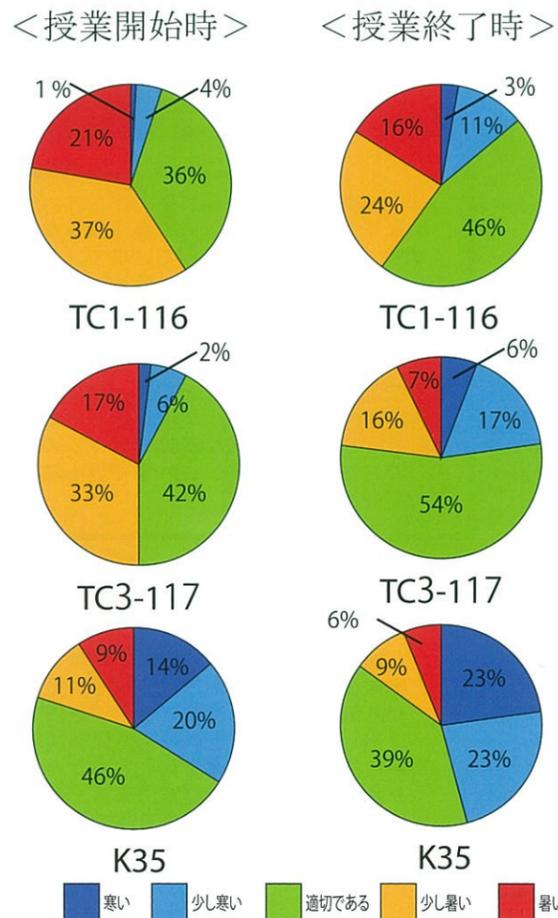
Q.1 低炭素キャンパスに向けた大学の省エネ活動の中でご存知のものに○をご記入ください（複数回答可）



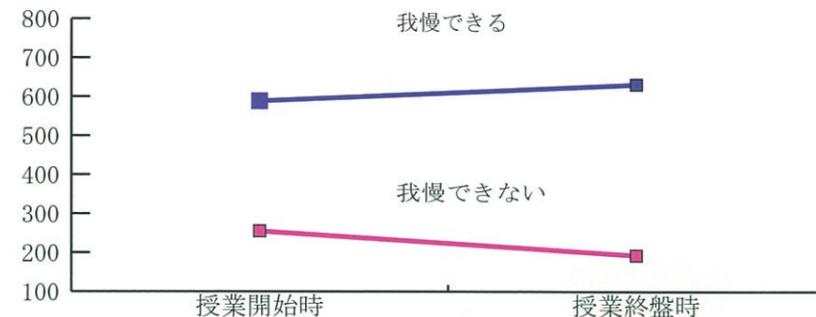
8割以上の学生がエアコンの温度設定を認知していることがわかります。これは校内に設置している28℃設定を呼びかける立て看板を目にしていることが大きな要因として考えられます。しかし、エアコン28℃設定に比べ、他の認知度が極めて低い結果となりました。発電された電力状況や使用状況を学内でもっと身近に感じる事ができれば、各家庭や地域で電力を生産することが浸透するため、これらの認知度を向上させる必要があります。また、ヒートポンプ式エアコンやLED照明といった環境負荷の小さな設備は、使用者の環境意識に関係なく導入しやすいものです。学生の学習環境を損ねないためにも、このような設備の導入は必要なものとなっています。

Q.2 授業中の体感温度はいかがですか？

男女ともに授業開始時に比べ終盤時の方が、「寒い」「少し寒い」の割合が増え、「暑い」「少し暑い」の割合が減っています。さらに「適切である」と答える学生の割合が開始時も終盤時も一番多いという結果になりました。そして男性と女性の違いに着目してみると、授業開始時の「寒い」「少し寒い」の割合は、男性6%、女性10%。終盤時の「寒い」「少し寒い」の割合は、男性15%、女性31%。授業開始時の「暑い」「少し暑い」の割合は、男性54%、女性51%。授業終盤時の「暑い」「少し暑い」の割合は、男性35%、女性18%。つまり、同じ設定温度であっても、男性の方が女性に比べ「暑い」「少し暑い」と感じやすく、女性の方が男性に比べ「寒い」「少し寒い」と感じやすいことがわかりました。



Q.3 この温度で我慢できますか？



体感温度には個人差はあるものの、教室内の人口密度や送風機の位置、その日の気温や湿度によっても変化することが考えられます。大人数が一つの空間に長時間集まる場所では、全員が一様に快適な環境にいることは困難であり、最適な解を設定することは非常に難しいことです。そして、授業開始時に比べて終盤時の方が、設定温度による我慢できる人の割合が男女とも増加していることが分かり、時間の経過が体感温度に影響していることも分かります。これは教室の席に座っていて動かないことや冷房にあたることで体温が下がり、我慢できる暑さになったことが原因だと考えられます。

## FAQ

Q. 効果や目的をもっとはつきり発信できないのでしょうか？

A. これまでは5月に行われる省エネルギー推進委員会でのみこの結果が扱われておりましたが、来年度からは大学HPなどでも発信を行い、結果が誰からでも見える形で行っていかうと考えています。

Q. 教室の大きさに合わせて温度設定をできないのでしょうか？

A. 教室の広さ、人口密度の高さにより体感温度が変化します。しかし、教室の中でも温度分布にむらがあり、体感温度の意見が異なるのも確かです。したがって何℃にすると最も満足なのかを判断することは難しくなっています。今後はこのような問題の解決に取り組む必要があります。

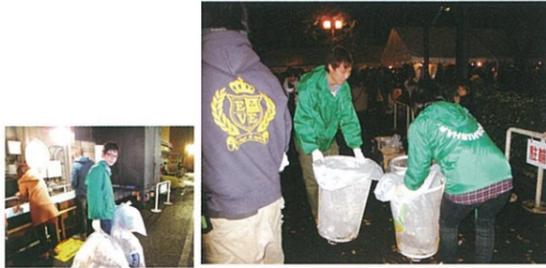
| 教室  | 教室回収数   | 校地回収数 | 全体回収数 |
|-----|---------|-------|-------|
| 京田辺 | TC1-118 | 265枚  | 713枚  |
|     | TC3-117 | 448枚  |       |
| 今出川 | M21     | 133枚  | 133枚  |
|     |         |       | 846枚  |

## 今後の省エネ活動

来年度の省エネ活動は、今年度の省エネアンケートを基にした28℃設定に対する学生の満足度を高める活動を精力的に行っていきます。特に大規模な設備を導入しなくても行えるような活動から実施し、その後さらにアンケートをとり学生の満足度を調べていきたいと考えています。その他にも、今出川キャンパスへの文系学部移転に伴い、今出川の学生に向けた新たな場所でのアンケートをとり、さらに多くの学生の満足度を調べていきたいと考えています。

11月26～28日に、同志社大学今出川キャンパスでEVEが行われました。

DEPメンバー全員で、学園祭中に出されるごみのリサイクル活動を行いました！具体的には、キャンパス内に設置されているごみ箱を回り、いっぱいになったごみ袋の回収や、来場者への分別指導にあたるスタッフへ改めてごみ分別のやり方を確認して回りました。



またその時に、分別された使用済み割り箸を回収し、段ボールに詰めました。そうすることで、後からリサイクル業者に郵送し、割り箸を紙資源にリサイクルしてもらうことができます。



さらに、揚げ物をする模擬店や、近隣にお住まいの京都市民から持ってきてもらった使用済みてんぷら油も回収し、業者や京都市に受け渡すことで、京都市バスや国内外の車で利用されるバイオディーゼル燃料にリサイクルしてもらえます！

使用済み割り箸

使用済みてんぷら油

リサイクル

紙資源

バイオディーゼル燃料

メンバーは1日、シフト制で交代しながら、これらの作業を行いました。学園祭では本当にたくさんのごみが出されます。周りが楽しんでいる中、真面目にごみを回収して整理するのは本当に大変です。しかし、自分たちの取り組みが学園祭の良い環境作りに貢献しているという実感があがり、ごみのリサイクルに繋がる活動をしていることが目に見えてわかるため、やりがいをとて感じることができました。普段関わったことのない他プロジェクトのメンバー間で交流できることも、楽しく活動に取り組める1つの理由です。3日間の学園祭期間中、参加メンバー全員でしっかりと取り組みました。

### EVE参加者の感想

EVE祭でのDEPの活動は、各ゴミ箱のゴミ収集や割り箸の分別、廃油の回収といった地道で大変な作業でした。周りがやりたがらないうえに、自らすすんでやる、というのは抵抗はないといえは嘘になりますが、こうした目立たない作業も環境をよくするためには必要なんだと思うと自然とやる気が出ました。普段は賑やかな環境啓発活動の多いDEPですが、たまに普段と異なる視点からの活動というのはいい刺激になりました。

### 京都市役所の方からのコメント

京都市では循環型社会の構築と温室効果ガスの削減に向けた取組を進めており、その実現には、次代の京都を担われるDEPの皆様をはじめとする市民一人一人の行動が不可欠です。今回の学園祭でDEPの皆様が使用済みてんぷら油の回収を通じて広く若い世代にその重要性を訴えていただきましたことは、未来の京都を守るための大きな一歩となりました。今後の皆様の更なる御活躍を楽しみにしています。



### 総括

集めた割り箸は計40kg、使用済みてんぷら油は271Lにもなりました。もし割り箸だけで紙製品を作ったとすれば、40kg分(約10,000膳)でボックスティッシュ60箱を作ることができます。また、回収した使用済みてんぷら油は走行距離1760km分のバイオディーゼル燃料にリサイクルすることができ、同じ量の軽油を使うよりもCO2が699kgの削減できるそうです！環境保全に直接的な効果のある、有意義な活動を行うことができました。

### サステナブル・キャンパス・コンテスト@北海道大学

2012年10月21日に北海道大学学術交流会館にて、本イベントは行われました。

サステナブル・キャンパス・コンテストとは、北海道大学(以下、北大)「持続可能なエコキャンパス」にするため、学生の自由な発想や研究成果の応用を活かした多様なプロジェクト案を募集し、審査するコンテストで、今年で3回目を迎えています。最優秀賞を獲得したアイデアは北海道大学の中で、実証実験が行われます。今回DEPメンバー3名が本コンテストの見学へ行きました。

本コンテストは、大学キャンパスを持続可能にしていけるアイデアを学生がプレゼンテーションし、北大の教職員が、経済的・技術的実行性やオリジナリティなどの観点から審査するというものでした。第3回目の今年度は、エコカーを使用した新たな北大内の移動手段の提案、(※1)TFTによって食事という自然な形で途上国へ募金していく活動、北大構内にコミュニティカフェを建設し交流拠点を作る案の3つが発表されました。多岐にわたるサステナビリティに関する活動やアイデアを聞くことができ、また様々な分野や年代の方と交流を行うこともできました。

※1 TFT: Table For Twoの略。対象となる定食や食品を購入すると、1食につき20円の寄付金が、TABLE FOR TWOを通じて開発途上国の子どもの学校給食となる仕組み。

### 大学とエネルギー

2012年11月17日に国連大学にて本イベントは行われました。

学生や職員が行う節電等による省エネは、限界を迎えているのが現状です。そのため排出するCO2を削減するには、次なるステップとして、太陽光パネルや風力発電に代表される再生可能エネルギーを導入することを考えなければなりません。そこで再生可能エネルギーの現状を知り、いかにして大学に導入するかをシュミレーションしました。

始めに、「地域」における再生可能エネルギー導入例が紹介され、原発と比較した際のその価値や性質についてお話をいただきました。次に、「大学」における再生可能エネルギー導入例が紹介され、再生可能エネルギーの種類とメリット、デメリットなどについてお話をいただきました。その後、「大学」に再生可能エネルギーを導入する際に考えることに関してお話をいただき、学生が大学に提言できるような手順や県が得方について教わりました。最後に、大学への再生可能エネルギーの導入について、立地と面積、そして学生数の情報をもとに提案書のフォーマットを埋めるという形式のワークショップに参加しました。



### エココン

2012年12月26日と27日に、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。

毎年全国大学生環境活動コンテスト実行委員会主催、エコリーグ、国立青少年教育振興機構共済で行われている大学生環境団体対象のコンテストです。全国各地の環境団体が、各自の団体で行っている環境活動の紹介を行い、最も影響力があり、その活動が高く評価された団体が優勝となります。今年は活動成果・分析力・巻き込み力・将来性・継続性に焦点を当てた評価が行われました。

同志社エコプロジェクトからはGCとFourKの一部であるThreeKとが参加しました。GCは環境×国際交流をメインにMissino&Vision、特に今年度最終企画であった「みんなで作ろう！手作りエコクリスマス」を中心に、活動に加わってくれた留学生の動画を交えて活動紹介を行いました。また、ThreeKでは立命館大学・大阪府立大学の学生と行っている環境×交通×観光をメインに観光用レンタサイクルの促進に向けた活動についてのプレゼンを行いました。プレゼン後、審査の前段階として審査基準の5つの観点について他の団体・審査員を交えてネガティブな面とポジティブな面について話し合いました。そこで得られた新しいアイデアを基に再びプレゼンを行いました。以上の全段階を踏まえた上で最終的な審査が行われました。結果、どちらも入選には及びませんでしたが、GC、ThreeKともに今後の動き、将来性についての改善点が見えてきました。GCの活動は一回ごとの企画で完結してしまっていました。これからは未来につながっていくような企画を考えなければなりません。ThreeKでは、時代に沿った企画であることに間違いはないが、基盤づくりがまだできていないため、まずは京都市や全国の自転車事情、そしてレンタサイクルの現状を再度分析することからはじめることで改善していくことにしました。

ThreeK・GCともに入選できませんでしたが、全国のいろいろな学生団体の活動を聞き、同じ志の若者の意見を聞くことで刺激されました。今後同志社大学、そして京都市にとってよりよい活動を行うことができそうです。また、エココンで交流のあった団体と協力するなどして活動の幅が広がりそうです。



# 全体会



## 全体会とは&総括

DEPでは、月に1度メンバー全員が集まる全体会を行なっています。全体会の目的は、「環境に関する知識面の強化」と「プロジェクト運営に必要なスキルアップと交流」です。2012年度は、会議力向上によりプロジェクト運営能力を高める狙いを持った全体会や環境活動家を題材にして環境についての知識やアイデアを深めるような内容の全体会もあり、全体会という場を上手く活用して、日頃の活動や企画の質の向上につなげることができました。

## 年間スケジュール

| 内容                              | 担当          |
|---------------------------------|-------------|
| 4月:新歓&プロジェクト運営能力向上              | <新歓チーム>     |
| 5月:省エネに関するワークショップ               | <省エネチーム>    |
| 6月:会議力育成講座                      | <OP会ほか>     |
| 7月:夏合宿予行                        | <夏合宿運営チーム>  |
| 8月:夏合宿                          | <夏合宿運営チーム>  |
| 9月:自分や環境について表現                  | <有志メンバー>    |
| 10月:クローバー祭での環境教育                | <E-pho&+E>  |
| 11月:同志社 EVEでのリサイクル活動            | <同志社EVEチーム> |
| 12月:環境活動家から学ぶ館教育問題<br>&1年間の振り返り | <有志メンバー>    |
| 1月:エココン報告&リーダー選挙                | <選挙管理委員会>   |
| 2月:ローム記念館PJへの参加に関して             | <DEPリーダー>   |
| 3月:卒業生最後の全体会                    | <卒業生>       |

## 4月期全体会

4月期全体会はDEPの活動に興味を持つ新生にDEPの雰囲気を感じ取ってもらう機会をつくることと、現役DEPメンバーのスキルアップ、そして、新生との交流という目的で行いました。アイスブレイキングを行った後、ファシリテーターや議事録などの会議に必要な役割のレクチャーを具体的にを行い、実際に簡単な議題について、役割を意識しながら会議を行いました。最後に『大学において、DEPがどのように活動できるか』をテーマとして各個人が思うエコなこと、エコでないことの意識を共有しながら具体的な方法をグループワークとしてディスカッションしてもらいました。



## <参加者の感想>

アイスブレイキングや会議などを体感して、楽しくDEPの雰囲気を味わうことができました。大学内でDEPが活躍できることについて生き生きと話している先輩たちの姿を見て、DEPに入ることを決めました。(1回生)

## 12月全体会活動報告

12月期全体会では「メンバーの環境知識を深める」、そして、「一年の活動を振り返る」という2つの目的で行いました。「環境問題といえば、あの人!」では、レイチェル・カーソンさん、ワンガリ・マータイさん、DEP・OPの森川恵さんの環境活動の取り組みと原点、信念をプレゼン形式で紹介しました。DEP・OPの鈴木一登さんは環境問題に対する自身の考えをスピーチして下しました。「自分を見つめなおそう」の時間では、「DEPで」「環境活動する」ことについて個人の想いや目標をワークシートに記入し、グループで共有しました。さらに、全体活動を今以上に活性化するためにどんなことをすべきか、学年ごとに話し合いました。



## <参加者の感想>

環境活動家にスポットを当てて様々な環境問題に対する想いや活動の原点を知ることができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、自分たちの活動を振り返り、活動の原点を見直す良い機会にもなりました。(4回生)

# 夏合宿



## 概要

2012年8月18日(土)と19日(日)、京都東山にある京都トラベラーズインという旅館にて、毎年恒例の1泊2日の夏合宿を行いました。今年のテーマは「プロジェクト力の向上」です。例年の環境に関連したテーマではなく、プロジェクトという点重きを置いた夏合宿でした。

## タイムスケジュール

### 【1日目】

12:30 開会宣言+趣旨説明  
13:00~14:30 講師を招いての勉強会  
14:30~16:00 レクリエーション  
16:30~18:00 OPとの対話  
20:00~22:00 前日準備  
22:00~ 交流会

### 【2日目】

6:45~7:30 ラジオ体操  
9:10~14:00 講座  
14:00~15:00 結果報告+振り返り  
15:00~16:30 全体会

## 夏合宿の流れ

今回の夏合宿の目的は、メンバーのプロジェクト力を向上させ、後期のプロジェクト活動につなげてもらうことでした。7月期全体会で、上半期の各プロジェクト活動における4つの課題点「コミュニケーション」「スケジュール」「ミーティング」「広報」を洗い出し、夏合宿でその課題点を改善するための講座を開講しました。

## 夏合宿内容

### 勉強会

環境市民事務局長の堀孝弘様を講師に招き「エネルギー問題について現状」と「私達学生に出来ること」をテーマに講演していただきました。エネルギー問題の現状について奥深いところから身近なところまで、多様な視点から説明していただきました。

### レクリエーション

伝言ゲームなど3つのゲームを行ないました。現役メンバー同士はもちろん、OPと現役メンバーの良い交流の場となりました。

### OPとの対話

雨天により予定したプログラムが中止となったため、急遽4人のOPメンバーに現役メンバーとの対話の時間を頂きました。それぞれの他己紹介や過去の夏合宿の話などとても貴重なお話を聞くことができました。

### 各チームの講座

#### -コミュニケーションチーム-

「悪い会話の仕方」「良い会話の仕方」を客観的に見てもらうことで、その違いを示しました。その上で実際に参加者にも会話してもらい、会話というコミュニケーションの難しさを実感することができました。

#### -ミーティングチーム-

40分間の模擬ミーティングを演じ、各ポイントの注意点を参加者に質問をしながら確認していくという講座でした。普段のプロジェクトのミーティングを振り返ってもらう良い機会となりました。

#### -広報チーム-

既存プロジェクトそれぞれにあった広報の仕方を説明した後、各プロジェクトに分かれそれぞれのプロジェクトに沿った広報対象(子ども・留学生など)に対しての広報を実演してもらい実践力を付けることができました。

#### -スケジュールチーム-

企画を行う上での案出しから企画本番までの流れを、双六で表しました。コマを進める中で「企画書の提出」や「リハーサル」など各行程でのポイントを学ぶことができました。

### 振り返り

講座を作るにあたり、良かった点、改善すべきだった点についてチームごとに振り返りました。またメンバー個人では、講座に参加して気づいたことをもとに後期の活動の目標を立てました。

## 総括

夏合宿最後の振り返りで、メンバーそれぞれに後期のプロジェクト活動で4つのテーマにおいてどのように貢献することができるかを考えてもらいました。普段忙しいDEPメンバーにとって、7月期全体会からこの夏合宿にかけて、上半期のプロジェクト活動を振り返りそれを踏まえて下半期の目標を立てるのは非常にいい経験になったと思います。

# Global Communication

町家企画

コココーラ工場見学

エコクリスマス企画

## 飛躍

今年のGCの目標は、「最低2つ以上の企画を行う」「多くの参加者を集める」ということでした。その目標のもと、企画の対象を主に同志社大学の留学生にしぼり、どのような企画をすれば楽しそうだと思うてもらえるかをみんなで考えました。

### <Plan 1>



2012年7月7日に、春学期2回目の企画として「町家 andrld Cafe」を四條京町家で行いました。日本の伝統からエコを学んでもらうという目的で、町家という日本の伝統的な建物を会場に選びました。

「町家 andrld Cafe」は、アイスプレイキング、ブース企画、ワールドカフェの3部構成で行いました。アイスプレイキングでは、韓国や中国から来た留学生6名とGCメンバーが自己紹介を行い交流しました。留学生の中には友達同士で来た人もいましたが一人で来た人もいて、ここで少し緊張がほぐれた様子でした。国当てゲームも行い、楽しみました。



ブース企画では、「食べ物」「自然」「もの」「ごみ」「建物」の5つのテーマに沿ったブースを設けて、それぞれ15分程度の体験型の企画を行いました。「食べ物」のブースでは昔ながらの食を通して『もったいない』精神をプレゼンしました。「自然」のブースでは日本の農業から学べるエコを紙芝居で発表した後、薬工作を体験してもらいました。「もの」のブースでは風呂敷を使って、ペットボトルなどのものの包装の仕方を体験してもらいました。「ごみ」のブースでは江戸時代のリサイクルについてクイズを交えて考えてもらいました。「建物」のブースでは伝統ある町家で、建物にあるエコを写真を通して学んでもらいました。

参加者は3つのグループに分かれ、それぞれのブースを回ってもらいました。プレゼンやクイズ、工作など様々な方法でエコを楽しみながら学んでもらいました。

ワールドカフェでは、各国の留学生とGCメンバーが3つのテーブルに分かれ、テーブルに置かれたテーマに沿って話し合ってもらい、一定時間が経ったら次のテーブルに動いてもらう形式でエコについて話し合ってもらいました。留学生ならではの面白い意見も飛び出したり、出身国によって違った意見が飛び出したりして、GCメンバーも勉強になりました。



### 日本の伝統×GC...

「町家 andrld Cafe」は、この2週間前に行った「コココーラ工場見学」企画とはまた違った体験参加型の企画を行うことで、留学生同士や留学生とGCメンバーとの距離も近くなり、お互いに楽しい企画になりました。

また、ワールドカフェを通して留学生と意見交換することで、GCの企画における新たな意見交換の形を実現でき、GCのmissionにある「環境意識・知識が向上する場」が提供できたと思います。



### <Plan2>

## コココーラ工場見学

Focusing on Environmental Consideration by Global Company

2012年6月24日、コココーラ京都工場にて留学生を対象とした企画を行いました。普段利用することの多いココ・コーラの商品の製造過程を見学し、企業の環境に配慮した取り組みを勉強することで、今後の生活でココ・コーラの商品を手にする際にその環境の取り組みを意識できるようになってもらうことを目的としました。



### in Campus

工場見学に行く前、ローム記念館オープンスペースで飲料企業が取り組む環境配慮についてのプレゼンを行いました。コーヒー・紅茶・ペットボトルに焦点を当ててクイズなどを交えながら留学生の方々も参加できるような形式にしました。留学生の方々にはペットボトルが植物を材料にして作られるということに驚いていました。また、使用済みのコーヒーかすが肥料に使われていることにも驚いていました。この時に京都新聞の方が来られ、翌日の25日の京都新聞山城版に記事が掲載されました。その後、環境に配慮した商品を考えて絵に描いてみるという絵コンテストを行いました。留学生らしい絵がいろいろ描かれていて大変楽しんでもらえました。留学生へのプレゼンが無事に終わり、やっとコココーラ工場への見学に出発しました。

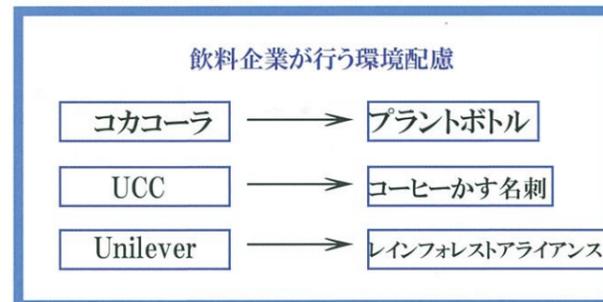
移動には、バスと電車を使いました。バスの移動中、留学生のみなさんから、工場見学が楽しみで仕方がないという雰囲気が感じとられました。

境問題に興味をもってもらえた企画となりました。そして、DEPメンバーも環境に関しての知識を深めることができました。



### 企業×GC...

今回の企画の良い点は、環境についていろいろ知ってもらえた点です。改善すべき点は、この工場見学で学んだことがその後活かされているのか確認できない点です。今後、留学生のフィードバックを強化しなければならないと思います。全体で見ると、今回は留学生の参加人数が多かったことに加え、豊富な環境の知識を留学生に知ってもらえてよかったです。



### in Factory

コココーラ工場に着くと、始めにコココーラの歴史や環境配慮などに関するムービーを見ました。ムービーは非常にわかりやすいもので、留学生の方々にもわかりやすかったようです。その後、工場内を見学しました。工場のスタッフさんが所々に環境に関するクイズを出してくださいました。クイズを出されたとき、留学生はそれまでの楽しい雰囲気と一転して真剣な面持ちで問題を考えていました。これもムービーと同じでわかりやすく、興味深いものでした。さらにクイズを進めながら工場内を進んでいくと飲料を製造しているスペースに来ました。そこでは大きな機械がいくつも並べられており、いつも私たちが飲んでるペットボトル一本を作るのにこんなにも大きな機械が使われていることに驚いたとともにこれだけ大きな機械を使っているから電気の使用量とかが多いからやはり環境に配慮したことをしていけないと環境に良くないということを思い知らされました。留学生に対して少しでも環

京都新聞山城版で  
紹介されました!!!



2012年6月25日  
京都新聞山城版より

### <Plan 3>

## みんなで作ろう！ 手作りエコクリスマス♪

2012年12月9日日曜日に同志社大学京田辺キャンパス新別館大議室にて、今年度最後の企画である「みんなで作ろう！手作りエコクリスマス♪」を行いました。ワークショップや手作りのエコな工作、交流会を通して留学生とクリスマスを楽しみながら環境に関する意識や知識を共有することを目的としました。

企画対象の学生は同志社大学に通う留学生だけでなく、同志社大学に通う日本人学生も対象としました。当日は日本、アメリカ、韓国、中国、ドイツの学生が集まりました。

アイスペイキングの後、ワールドカフェでいくつかのテーマを設定して意見交換を行いました。「世界の冬の過ごし方」というテーマでは、参加者の出身地域の冬の環境や温まるための方法などを紹介しあいました。「エコで連想するものは」では、それぞれの国独特の技術や考え方、取り組みが挙りました。「今からできるエコ」では、エコバッグの利用やトイレのタンクに水の入ったペットボトルを入れるなどの方法が挙りました。「世界のクリスマス」では、参加者の出身地域での有名なクリスマスイベントを紹介しあいました。



その後、今年の冬をよりエコに過ごしてもらうために、様々なエコ工作を行いました。同志社大学のEVEで回収した廃油と各自持ち寄った耐熱容器、キリスト教文化センターから譲っていただいたクリスマスツリー点灯式の際に使われた竹のキャンドル立てを使って、廃油キャンドルを作りました。また、里山で拾ってきた松ぼっくりでクリスマスリースを作ったり、市販の「お絵かきWrappy!」を用いて持ち寄ってもらった水筒またはペットボトルを自分でデザインしてマイボトルを作ったりしました。最後に企画側に回ってくれた韓国人留学生から、韓国の冬、食べ物などについてわかりやすく紹介してもらいました。



交流会中は、さつまいも、じゃがいもの皮を使ったせんべいや、皮ごと食べられるキャロットケーキの紹介を行いました。また、DEPの紹介や参加者同士の自由な意見交換も行いました。



### 新たな試み

今回のエコクリスマスでは日本人学生も公募したため、日本人学生も多く、留学生も幅広い国籍の方々に参加していただきました。企画の手伝いとして韓国人留学生3名が関わったため、留学生から留学生にプレゼンを行うという新しい試みも行われました。留学生が企画に関わることで、自分たちの企画が留学生にどう受け取られるのかを確認しながら進められたり、新しい知識や価値観を共有したりすることができました。

春学期は毎週月曜日、秋学期は毎週水曜日の昼休みにご飯を食べながらおしゃべりをする交流会を行いました。この交流会は留学生とのつながり、ネットワークを作るために始めました。環境要素は特に入らず、ここで交流を楽しみながら企画の告知を行いました。

## ランチタイム 交流会

### From 留学生

2012年5月の末からGCの交流会に参加し、またGCの色々な企画に参加しました。そこで感じたことが多く、実際にGCのみなさんと企画をつくって行きたいと思いました。私たち留学生の側で感じたものをもっと活かして企画に役立ちたいと思い、GCに入ることになりました。



### <飛躍の一年>

今年は計3回の企画を行うことができ、毎回の企画で10人以上の参加者を集めることができたので、目標を着々と達成することができました。留学生とのつながりを持つことができ、企画のリピーターもできました。年末には、いつもは参加者側だった留学生3人を遂にGCの正式メンバーとして迎えることができました。これで今後の企画をより充実させ、留学生の方々がより楽しめるような企画を行うことができそうです。

しかし、企画の度に準備不足などの課題も見えてきました。また、企画の参加者は京田辺校地の学生が多く、今出川校地からの学生をほとんど得られませんでした。京田辺校地にはアジア出身の留学生が多く通うため、アジアからの参加者が集中しました。これからはキャンパスが文理別に分かれるので、両校地での広報が可能となります。したがって、いろんな国籍の参加者を得られそうです。より多くの異なる文化の人々と交流して、各国での環境事情を送受信することでこれからも環境について考えていける人々を増やしていきます。

# + E ~環境教育~



## これであなたも 食べ物博士？

2012年11月3日土曜日、4日日曜日に、同志社大学でクローバー祭が開催されました。+Eは、教室出店のひとつとして、京田辺キャンパス知真1号館110教室にて企画を行いました。小学生を対象に、子供達の食べ残しが少しでもなくなることを目的としました。



2日間合わせて、約100名の子ども達が企画に参加しました。その中でも比較的多かったのは、小学校低学年・幼稚園児です。本企画では、紙芝居、食材の栄養バランスを学ぶカードゲーム、野菜が出来るまでの過程を学ぶすごろくを行い、「食べ物を残さず食べることはいかに大切か」を学んでもらいました。すごろくやカードゲームを用いることによって、退屈せず、楽しく学んでもらうことができました。食べ物ごとに栄養バランス表の赤・黄色・緑のどれにあたるのかを子ども達に質問してみたところ、すぐに正答を答えるまでになっていました。企画の最後に、野菜博士メダルを配布し、企画を通して感じたことを宣言として書いてもらいました。企画前に「ピーマンが食べられない」と話していた子どもが、メダルに「ピーマンを残さずに食べる」と書いていました。このように、企画前後で心境の変化が見られる子どもが多く見受けられました。

### ☆それぞれの自信に☆

今回作成したカードゲームや紙芝居を今回だけで終わらせるのではなく、今後の企画でも再度使用するなどして、企画のパッケージ化を進めていくことが可能だと思えました。今回の企画は、+Eメンバーが独自に紙芝居のストーリーやゲームのルールを考え、カードなどの準備物も自分たちで作成しました。

この経験を通して、協力すれば一から企画を作りだすことができると確信しました。この確信は、メンバーそれぞれの自信になったと思います。

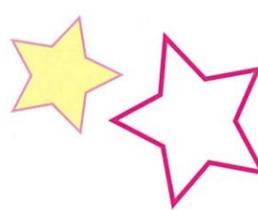
# 新！ Environment Education Enjoyment

## エコ太とサンタの クリスマスの朝



2012年12月15日土曜日に、京田辺市田辺区公民館で行われたクリスマス会のプログラムの中で環境教育を行いました。対象は、田辺区の子ども達及びその保護者です。

午前の部と午後の部の2回にわけて、紙芝居と〇×クイズを行い、それぞれ約100名の子ども達と約20名の保護者が参加しました。紙芝居は「クリスマス×省エネ」をテーマとしたもので、サンタさんが子どもたちに省エネを意識するようお願いするという物語でした。〇×クイズでは紙芝居をもとにして、日常の省エネに関する問題を出しました。紙芝居・〇×クイズを通して、日常生活のどの場面で省エネを意識すればよいか、子どもたちに考えてもらいました。子供たちは積極的に取り組み、〇×クイズではほとんど全ての問題に正解することが出来ました。100人もの子ども達を対象としたため、まとめるのは大変でしたが、保護者や田辺区の方々の協力のもと、無事成功することができました。



### ☆2つの教訓☆

今回の企画から得た教訓が2つあります。1つ目は、子ども達の集中力を低下させないように時間配分を考慮することです。企画内容にばかり気を配ってしまい、時間配分まであまり考えることができませんでした。2つ目に、企画の中で盛り上がる場面も大事であるということです。子ども達の感情は場の雰囲気も関連しており、盛り上がり欠けると集中力も低下してしまいます。今後このような大勢の子ども達を対象とした企画を行う際は、この教訓を活かして取り組みたいと思います。

### ☆1年を終えて☆

この一年間を通して、いかに楽しさと学びの部分を織り交ぜるのが重要だと感じました。クローバー祭では、やはり学びよりも楽しさの方が勝っていたというような印象を持ちました。また今どだけの子ども達がクローバー祭企画のことを覚えてくれているのか考えると、中にはもう忘れてしまっている子供達もいるかもしれません。企画が終わっても、子ども達の記憶に残るような企画作りが必要だと思いました。企画中では、メンバー自身も企画を楽しみながら行う姿勢が見えました。自分が企画を楽しんでいると思えなければ、子ども達も企画を楽しんでいることはできません。今回の企画での反省点は次に生かし、良かった点はさらに伸ばして、さらにパワーアップした環境教育を創出したいです。

# FourK

## 始動



### <キックオフミーティング> ~スタート!!~

2012年5月26日に同志社大学今出川キャンパスにてキックオフMTGを行いました。「参加者同士の交流を深める」と、「京都市について知る」と、そして「調べ学習の方法について学ぶ」という3点を目的としました。

イベント当日は、まずプロジェクトの今年1年間のスケジュールと目標を確認し、アイスブレイキングとして自分の住んでいるまちの紹介を行いました。その後、京都市内を散策し、環境に配慮された取り組みを探し、たくさんの建物やお店を見て回りました。最後に京都市内の各区の特徴を知るために、グループごとに調べ学習と発表を行いました。

5月に行われたイベントということで、1年生と2、3年生の良い交流となり、活動を始めやすい雰囲気作りができました。またアイスブレイキングでは、普段過ごしている自分のまちの魅力を新たに見直すことができ、京都市内の散策では、普段の生活では気付かないような、環境に配慮した取り組みを多く見つけることができました。

プロジェクトを新しくスタートさせる上で、最も重要となる雰囲気作りをうまくできたことが一番の成果でした。参加者同士が誰とでも壁を感じることなく話すことができ、難しいテーマの中にも楽しさをもって取り組んでいたことがとても素晴らしいことでした。実際にFourK全体として活動するというよりも、グループに分かれて活動するという場面が増える手前、一体感を持つことができたということも、大きな成果として挙げられました。



### <夏合宿> ~ステップアップ~

2012年8月10日、11日に同志社大学今出川キャンパスにて夏合宿を行いました。「巷にあふれている環境に関する言葉についての知識を深める」と「プレゼン力を高める」との2点を目的としました。今回の夏合宿は「勉強会」をテーマとして行いました。形式は、環境に関するある言葉について調べ学習を行い、それを参加者にわかりやすくプレゼンをするというものでした。プレゼン後に質問を受け付け、わかりにくかったところを中心に再度インプットを行い、完全な理解を得るために、3度調べ学習とプレゼンを繰り返しました。3つのグループに分かれ、それぞれが選択したテーマは「グリーン経済」と「再生可能エネルギー」、そして「グリーンウォッシュ」でした。



環境活動を行う上で最低限知っておいた方がいい言葉を扱ったため、単純に理解を深められたことは成果として挙げられます。またお互いの進捗状況も確認でき、有意義な時間を過ごすことができました。

それぞれの言葉で表す範囲が異なる中、どこに重点を置くかをしっかりと判断し、各々のスキルアップにつなげることができたことは素晴らしいことでした。2年生を中心に、調べ学習の方向性やプレゼンの作成がうまくできていたので、目的とはまた違った部分での成長を感じることができました。またお互いの進捗確認から、活動への意欲も高まり、新しい発想や今まで感じなかった気づきを得ることができました。



### <成果報告会> ~今年度の振り返り~

2012年12月23日に同志社大学今出川キャンパスにて行いました。「今年度の活動を振り返り」とともに、「企画力、プレゼン力の向上」を目的としたワークショップを行いました。

企画力、プレゼン力を高めるために、まず講座形式でそれぞれの効果的な方法について紹介し、グループごとに分かれて、テーマに沿った企画内容を考えました。具体的なテーマは、新歓イベント、学園祭、地域との連携イベントの3つで、環境に絡めたたくさんのアイデアを考え、共有することができました。さらにその後、それぞれで考えた案の中で一番気に入ったものを企画書としてまとめました。参加したメンバーの中には、企画書を書いたことがないメンバーも多くいたため、先程と同様に講座形式で方法を紹介し、個人の意見をまとめることはまた違った難しさを体験しました。

振り返りでは、エココンに参加するThreeKの予行をメインに、530、NAISの1年間の活動をそれぞれ5~10分程度で振り返りました。

今回の全体会は主に1年生が講座の作成やテーマについて考えました。初めてワークショップを作るにもかかわらず、「企画力」という難しいテーマをとてもわかりやすく紹介し、皆のスキルアップにつなげることができたのは、本当に素晴らしいことでした。さらに大阪大学環境サークルGECSから、4名もの人がワークショップに参加してくださったため、ワークショップの際に普段とは違った色のアイデアが生まれたため、とても充実した時間を過ごすことができました。

### チームテーマ

観光地の交通渋滞を問題とし、**レンタサイクルによる観光を推奨**することで、その問題の解決に取り組んでいます。人々の意識の中にある観光方法の選択肢に、「自転車」を浸透させることを目標としました。

### 今年度の取り組み

大学生を対象に自転車観光の楽しさを知ってもらい今後の利用につなげること、「エコな乗り物」である自転車を体感することで、環境について考えるきっかけを作り出すことを目的として、レンタサイクル観光のイベントを実施しました。イベントは11月18日に行われ、大学生10人に対して京都観光のツアーを行いました。京都駅を出発し南禅寺、平安神宮、二条城を観光し、始めの京都駅へと戻ってくる行程でした。昼食時にはワークショップを開き、実際に乗って見た感想や、自転車がエコであることを示す数値を用いて今後普及に必要なことについて参加者と一緒に考えました。

### 結果

レンタサイクル観光を実際に体験してもらえたことで、今後の利用拡大につながりました。またワークショップを通じて、観光と環境問題の関連性についても学んでもらい、意識してもらうことができました。体験と知識を提供できたことで、観光以外でも自転車利用そのものの有用性を理解してもらい、日常、観光双方での自転車利用の促進につながりました。今回は京都市内の大学生ということで対象が限定され、レンタサイクル観光を推し進めるうえでの規模が足りませんでした。今後は学生のみならず、民間、行政と協働で対象をより広くしていきます。



### ThreeK (交通)

## FourK

### ライフスタイルの変革

### NAIS (自然環境)

#### チームテーマ

**自然環境の保全と保護を目的とした活動**を目指しています。学生主導で行うには知識やつながりが少ないため、実際に活動しているNPOを中心に協力して活動を行っています。

#### 今年度の取り組み

今年度は大学付近でNPOが主催している4つのイベントに参加し、自然環境の保全や保護の方法を実際にフィールドワークで学び、学生が協力できる部分について探しました。

#### 結果

京田辺市を活動の拠点としているNPOとつながりを作ることができ、来年度以降の活動を京田辺市に移して、京田辺市の住民と自然環境を結びつけるような活動を行っていくことに、活動方針を固めました。

### 530 (廃棄物)

#### チームテーマ

**同志社大学で廃棄物に関する活動のモデル**を作り、京都市内の他大学に発信することを目標としています。

#### 今年度の取り組み

春学期は古紙回収のモデルの作成、秋学期はマイボトル普及活動を行いました。古紙回収では、片側のみが使用された紙を集め、再利用してから回収する方法について考えました。マイボトルの普及活動では、大学内にある生協や食堂などと連携してポイント制度の提案や、啓発用のポスターを作成する活動を行いました。

#### 結果

古紙回収では、個人情報のセキュリティの甘さから、大規模に行うことは許可されず、新歓期など特定の期間のみの実施を前向きに検討していただけることになりました。またマイボトルの普及活動は、啓発用のポスターの作成にとどまっています。

# E-pho 成長

E-pho は、2012年度の同志社ローム記念館プロジェクトに採択されたプロジェクトです。1年間の活動予定を事前に決定した上で4月に新入生も加え、活動を進めていきました。

## 環境MAP

4月～2月の計6回に渡り、大学の正門～興戸川原谷の手前、西門～大学駐輪場、西門～正門、南門～大学駐輪場の4コースを歩きました。12月末頃から環境MAPのコンテンツとしての作業を始めました。

### 当日の様子

環境MAPの作成は2012年度の活動の中で最も重きを置いていた活動でした。校舎周辺の道のゴミを拾い、その写真を撮影することで、学生自らが日常の中で自然と向き合い、資源の大切さを見つめ返すことのできる、気づきとなるようなコンテンツとして、環境MAPを製作しています。



実際にキャンパスのぐるりを歩いてみると、通学路には学生の捨てたと思われる飲みかけの缶やペットボトル、たばこの吸い殻、ビニール袋や衣類、粗大ごみにわたるたくさんの種類のゴミが見つかり、持って行ったポリ袋いっぱいゴミを詰めて帰っていました。また、ゴミの写真だけでなく自然を写した写真も多く撮影し、一年を通じた環境MAP製作のなかで、京田辺の豊かな自然の移ろいを感じることもでき、環境を視覚的に捉え、それを発信するというE-phoの活動理念にとってもよくなった活動であったと思っています。

また、ゴミ拾いをする中で、普段からキャンパス生活のなかでお世話になっている清掃員の方々や、キャンパス近隣の住人の方々ともコミュニケーションをとることができ、E-phoやDEPとしての活動を認知してもらうこともできました。

また、12月末ごろから本格的にコンテンツとして完成させるための作業工程を並行して行い始め、地図を作る作業は、主にイラストレーター(Adobe® Illustrator®)をつかってすすめていきました。ほとんどのE-phoメンバーがイラストレーターでの作業は未経験のものが多かったのですが、実際にコンテンツを作っていく過程でイラストレーターに慣れ、実践による経験を積むことができました。



## 走り出した企画

メインコンテンツとして環境MAPの作業を進めていく中で、今年度は写真やイラストレーターの技術の向上、資源の大切さの見直しなど、E-phoメンバーそれぞれが、なにかしら新しいものを得ることができたように思います。

環境MAPは走り出したばかりのコンテンツで、まだまだ改良すべき点などは残っていますが、これからたくさんの方の年月を重ねて、環境MAPをE-phoの一つのメインコンテンツとして確立していきたいです。

来年度は環境MAP第2弾として、キャンパス内の環境MAPを作ることを考えています。

## オリジナル写真立てを作ろう!

11月3日、4日に、同志社大学でクローバー祭が開催されました。E-phoは知真館1号館114号室にて、「オリジナル写真立てを作ろう!」と題し、主に子どもたちを対象に企画を行いました。本企画を通して子どもたちに自然や環境についての興味や知識を深めてもらうという目的の下、写真立て作りがスタートしました。

### 当日の様子

当日は、来場してくれた幼稚園児から小学生のグループに対してメンバー1人がつき、まつぼっくりなど自然の中から入手できるもので写真立ての飾りつけを一緒にしました。その後、ポンドが乾くまでの時間に、光合成や紅葉など自然に関連する様々な項目を説明した模造紙を用いて、メンバーが説明する時間を設けました。最後にE-phoがこれまでの活動で撮影してきた自然の写真を、写真立てに添えてプレゼントしました。

想定以上の人数の参加者が来てくださり、事前に用意していた写真立てのフレームが足りなくなってしまうほどでした。全行程の中でたくさんコミュニケーションをとることができ、ほとんどの方々に満足して帰っていただけました。またそれだけではなく、参加者にDEPの活動について知っていただけたと思います。

## 環境への関心を

当日の運営の仕方や子どもたちとの接し方など、不安な点はありませんでしたが、最後は子どもたちやその保護者の皆さんから「ありがとう」「楽しかった」と言ってもらい、メンバーも参加者と一緒になって楽しめたと思います。子どもたちが環境や自然に関心を持ってくれたらという思いから始まった企画でしたが、私たちの言葉に熱心に、それでいて楽しそうに耳を傾けてくれる子どもたちの様子を見て、この企画をやったよかったと思いました。

## 写真の撮り方講座

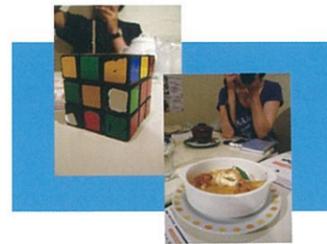
雨の降る6月16日の午後3時から、京阪祇園四条の小さなカフェ、Café Greenで写真撮り方講座が開催されました。

### 当日の様子

「HPに載せる写真、どうせなら素敵な写真を載せたい!」そのような思いから写真の撮り方を学ぼうと、とあるカメラマンに開催していただきました。この講座の受講生はE-phoメンバーの4人と、まさに少人数クラスでした。露出光の設定など撮り方の基本知識から、私たちが環境MAPなど普段の活動で撮るときのコツ、人の被写体をかっこよく撮る方法など、様々な方法を写真を撮りながらアットホームな雰囲気でも教えていただきました。今までオートモードで当たり前のよう撮っていた写真も一つの設定を変えるだけで見違えるような写真になりました。初めて知ったことを忘れないようにメンバーは必死にメモをとりましたが、写真を撮るのに夢中になっていました。

## 基礎から学ぶ

この講座ではカメラを触りながら楽しみつつ学ばせていただきました。しかし、重要なことは、ここで学んだことをここで終わらせず、これからの活動をいかに活かし、DEPメンバーに教えられるかということです。この一年間、E-phoは自分たちの活動に限らず個別PJの活動の写真を撮る機会をたくさん与えていただきました。「上手に撮ってくれてありがとう。」その言葉が一番嬉しく、講座の成果を実感することができました。



## Web制作

E-phoのホームページは、Intro、Photo、Content、Q&Aという4つの部分に分かれています。主に写真を使った運営を特徴としています。IntroではE-pho、DEP、ローム記念館プロジェクトについての説明が書かれていて、私たちの紹介となっています。PhotoではE-phoメンバーが環境MAPなどで撮った写真を撮影者のコメントと共に載せています。Contentにはまだ何もありませんが、写真を使ったものを今後あげていく予定です。Q&Aではよくある質問のほか、お問い合わせができるようになっています。

## 私たちの手で多くの人へ

E-phoのサイトを立ち上げてから1年は活動で撮った写真をホームページに載せてきました。運営を始めて1年なので、今後多くの人々にホームページを見てもらえるよう取り組んでいく必要があります。来年度はアクセスカウンターをつけるなどして、実際にどのくらいの方がサイトを訪れてくれたかがわかるよう

などの工夫をし、さらに多くの人に見てもらうことで、環境について考えてくれる人を増やします。また、DEP内での連携にも力を入れていく必要があると感じました。現在はリンクから他のプロジェクトのホームページにとべるようになっていきます。

「言語に関係なく写真や絵によって人々の環境意識向上につなげたい」という意図の下E-phoのサイトを作り始めました。今年1年、活動で撮った写真を少しずつ、コメントと共に載せてきました。現在は写真しか載せていませんが、今後は写真を使ったコンテンツを増やし、小さい子どもから大学生まで様々な年齢層の人に見ていただけるようなサイトを運営していきたいと思っています。



## 中間報告会

### 中間報告会とは

中間報告会は、同志社ローム記念館プロジェクトに所属する各プロジェクトが活動を報告する場です。今年は今後の活動についてプレゼンテーションをした後、今までの活動や制作物を見せ合い、意見交換を行いました。

### 当日の様子

中間報告会では他のプロジェクトの活動を知ることができ、また自分たちの活動を見つめ直し、これからの活動について改めて考える良い機会となりました。私たちが他のプロジェクトの方から、環境MAPについては留学生との交流を深めつつゴミ拾いをしたら良いのではないかと、ホームページについてはまず同志社生に見てもらえるような工夫が必要ではないかと、などと今後の活動へつながるアドバイスをいただきました。

## 踏み出した一歩を、次の一歩へつなぐために

1年間の活動予定を事前に決定していたため、今年度開始直後は、プロジェクトの活動も順調に進むと思っていました。しかし、想定外の活動の多さと人員不足から、予定通りに活動を進めることができない時期もあり、計画を実行することの難しさを知りました。結果として、日頃のミーティング、HPの更新、環境MAP・写真の撮り方講座という企画の実施回数など、ひとつひとつの活動に予定していたほどの力を注ぐことができませんでした。しかし、このような状況の中でも、メンバーの成長を見ることができました。開始直後よりもメンバーが自分の意見を発言するようになり、自ら進んで関わっていくようになりました。今後は、ゆとりをもった計画を立てることはもちろんですが、メンバーがさらに主体的に参加することを望みます。



# 学年別座談会

1回生座談会は全学年最多の9人で行われました。参加者は九里、豊島、中島(裕)、森地、若林、韓国人留学生のひょく、ひょん、ゆん、そして富士田です。テーマは「1回生からみた2回生」でした。

- 九里) 個人じゃなくて、2回生の全体的なイメージとかある？  
 豊島) 2回生はすごく個性的だから、一つのイメージでまとめるのは難しいなー。2回生全員の共通ってないかな？  
 中島) やるときはやる！  
 全員) あー(納得)。  
 森地) ふざけるときはふざけるけど、真面目なときはとても真面目で、メリハリのある人が多いよな。  
 ひょく) 2回生といえば、渡辺さん！！1月からDEPリーダーになったよね。  
 ひょん) リーダー選挙の前に一人一人と対談の場を設けてくれたのが印象的だったな。DEPをどうしたいかが明確に伝わってきてDEPを自分のことのように考えてくれて。  
 ゆん) しかも人の意見をちゃんと汲み取ってくれる人だって感じた！  
 若林) 話聞いてくれるのが上手だから、安心して何でも相談できるよね。  
 富士田) それに、みんなの意見を上手にひろってまとめてくれる。ファシリテーションの会議とか見せて、凄いなって思うよね。そう、心強いリーダーって感じ！  
 全員) 心強いリーダー！！

## 1回生

2回生座談会の参加者は、渡辺、吉永です。テーマは「個別PJの1つであるGCのすごいところ」でした。

- 渡辺) 所属人数が多いから、みんながとっても楽しそうだし、会議の雰囲気もいいよな。人数が多いからといってダレてしまうこともない！  
 吉永) そうそう！今年はワークショップ、イベントにおいてGCメンバーの役割分担をしっかりとすることを意識したおかげかな。それに、留学生の加入もあって、モチベーションを維持できたこともよかったと思う。でも、一昨年を思い返すと、GCは国際交流サークルに比べて交流が少ないことに問題意識を抱えてたなあ。  
 渡辺) そのせいで、留学生へのイベントの広報は留学生の知り合いが多い人に頼りすぎてたもんな。  
 吉永) うん。それで今年は普段から留学生との交流会を開催して留学生とのつながりをつくった。そのおかげで、留学生が積極的にイベントにも参加してもらえるようになったよな。  
 渡辺) 留学生が加入によってGC内の価値観が多様化してGCがさらに発展していくことが楽しみ！  
 吉永) 私も♪日本からだけじゃなく、留学生からの視点も入れることができると思う。  
 渡辺) じゃあ、企画を振り返って思うことは？俺は、ココウラ企画で「環境」+「楽しむ」っていう環境以外の要素も入れ込んだのはいいと思った。  
 吉永) でも、クリスマス企画のときはリハーサル不足だったかな。他にも、ファシリテーション能力とかまだまだレベルアップできることがありそう！

## 2回生

4回生座談会参加者は、栗原、下山、三河、吉本です。テーマは「後輩のすごいところ」でした。

- 栗原) 今年、大活躍やったDEPメンバーって誰やろう？  
 下山) うーん、、、3回生の森じゃない？森も頑張ってたし、あいつが所属してる環境教育プロジェクト+Eの企画もよかったよ！  
 三河) 私も森くんと一緒に+Eで活動してたけど、彼のいいところは企画に参加してくれる子ども目線で考えることができるところかな。  
 栗原) 面白いアイデアが出ると、ノリノリになるしね(笑)  
 吉本) 環境教育の企画を考えるにあたって、対象である子どもたちのことを考えることはとても大事なことやね。身近な話と結び付けられないか、どういった反応を返してくるのか、興味を持ち楽しんでくれるか。子どもたちの目線に立つことが出来るからこそ、企画を通して自分たちの想いを伝えることができると思うよ。  
 栗原・下山・三河) 確かに！！  
 三河) でも、森くんの場合、彼自身がちょっと子どもっぽかったよ(笑)  
 下山) あいつ、突っ込みどころ満載やからな(笑)  
 栗原) そういえば、森くんは、会議中もみんなが発言しやすいように声をかけてたみたい！みんなが話せたことで、会議の雰囲気がすごく良かったってきいた。  
 下山) あいつ、すごいじゃん！  
 吉本) +E、いいな～！！

## 4回生

3回生座談会参加者は、長田、田邊、森、川島です。テーマは、「外側から見たE-pho&内側から見たE-pho」でした。

- 長田) 俺最近入ったんだけど、E-phoってどんな活動しているかわからないんだー。  
 田邊) フォトサイトを用いて環境啓発を行なっているプロジェクトだよ。今年度で2年目のプロジェクト。  
 長田) へー、新しいプロジェクトなんだねえ。やってみることも面白そう♪  
 森) 確かに！HPを使えばいろんな活動が出来そうだね。  
 川島) 今年1年間どうだったの？  
 田邊) 体制を整え試行錯誤した1年目と比べて、フォトサイトが完成し、方針も定まって「環境MAP作り」や「写真の撮り方講座」「京田辺祭の出店」とかたくさん企画できたし、フォトサイトの充実に向けて一歩前進した感じかなあ。  
 川島) いいねえ。環境MAPはE-phoのフォトサイトの中でも重要なコンテンツの一つだよな。同志社大学周辺のどこにどんなゴミが落ちているか分かれれば、ゴミについて考える良いきっかけになりそう。しかもネットを使うからたくさんの人に知ってもらえるよな。  
 森) メンバーってどんな感じ？  
 田邊) 新しく入った1、2回生がとてもしっかりと頑張ってくれているね。これからがとて楽しみ！！  
 長田) E-phoはまだまだ成長の可能性のあるプロジェクトなんだね。よくわかったよ。これからも、E-phoのフォトサイトをチェックしてみるね。  
 田邊) よろしく～。ちゃんと更新できるように頑張ります。

## 3回生

## 1回生

- 若林美里  
文化情報学部  
なにか、将来に関わる大きな目標を見つける！
- 富士田有希子  
法学部  
ちゃれんじp(´ω´)q
- チェビョクイン  
文化情報学部  
すべてのことを頑張る一年を過ごしたいです！
- 九里裕  
経済学部  
FourKのNAISで納得できる成果を出す。
- 藤野友絵  
法学部  
クズにならない
- イユンキョン  
スポーツ健康学部  
留学生ということを生かして留学生たちと もっと触れ合えるように頑張りたい！そして、DEPに役立てるように頑張る！
- イヒョンジ  
グローバルコミュニケーション学部  
バイトにも勉強にも充実した1年にしたい！また、GCでの活動も精一杯頑張ります！！
- 中島裕之  
法学部  
脱女子、紳士力向上 充実した活動を目指す
- 豊島由梨佳  
法学部  
知識、判断、行動、修正。 まずは、インプットしまくる！！
- 森地亮太  
経済学部  
一回生の時よりさらに充実した生活をしたい。
- 杉浦和恵  
生命医科学部  
妥協しない！！

- 吉本篤規  
経済学部  
DEPで学んだことを違う場所で活かす
- 栗原和音  
理工学部  
自分の周りから、愛情でいっぱい環境に！
- 下山凌平  
経済学部  
謙虚さと向上心を常に持ちながら 地域を飛び出す公務員として 練馬を良くする企画を3本通す！
- 三河千里  
法学部  
失敗してもめげずに頑張る！

## 4回生

# DEPメンバー来年度への意気込み

川島弘嗣  
経済学部  
DEPの長老として頑張ります。

森誠三郎  
理工学部  
やる気スイッチを探します。

## 3回生

中島健太郎  
理工学部  
色々な面でDEPを盛り上げる存在になりたい！

北高明佳  
同女 現代社会学部  
ゆとりをもつ。

福田佑貴  
理工学部  
来年は社畜になりたいです！笑

杉山鈴賀  
商学部  
負けたくない！！

渡辺太樹  
理工学部  
今年こそ脱猫背、脱ネガティブを目指します！

山本周一  
法学部  
GPA挽回！！

久野真由子  
経済学部  
器を広げる。

吉永由美佳  
理工学部  
来年度は、興味本位だけでなく、将来につながるような活動がしたい。

奥田知美  
法学部  
もっとまともに生きる！

## 2回生

## 新メンバー募集

環境問題に関心のある方はもちろん、環境教育・国際交流・まちづくり・写真・Webサイト製作に少しでも興味のある方は下記の連絡先までご連絡ください。メンバーは随時募集しているので、いつでも活動について説明をいたします。

### DEPの特徴

- 1、サークルではない、大学組織だからできる大規模な活動！
- 2、多学部、多学科、多様なメンバー
- 3、自分のスキルUPもできる！

MAIL: dep.asumi@gmail.com  
HP: http://eco-pro.doshisha.ac.jp/



### 編集長より

まず、今年度の年間報告書の作成にご尽力いただきました全ての皆様へ感謝いたします。DEP一年目で編集長という大仕事をやりきることができましたのもみなさまのおかげであると思っています。

どうすれば、いいモノが作れるか。どうすれば、DEPの魅力を最大限に発信できるかについて考えながらの作業は、私自身にとっても大変な中にも毎日がやりがいに満ちていました。

この年間報告書を手取るすべての人々にDEPメンバーひとりひとりのキラキラが伝われば幸いです。